

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立城南小学校) 学校番号 100

【様式】

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 認め合い 学び合い 高め合う 心豊かな児童の育成 (「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子の育成) |
| 目指す学校像 | ○学び合い、高め合う、活力ある学校 ○規則と秩序があり笑顔あふれる学校 ○美しく整えられ安全で潤いのある学校 |
| 重点目標 | 1 児童の実態を把握し、情報端末を活用した学習と個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 2 児童・保護者に寄り添った教育相談体制の構築と安心・安全な学校づくりの推進 3 コミュニティ・スクールとして地域・保護者との協働の推進 4 安心・安全で落ち着いた豊かな教育環境の整備 5 教職員一人ひとりが力を発揮できる環境づくりとワンチームで対応できる組織力の構築 |

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| | | 学 校 自 己 評 価 | | | | | 学校運営協議会による評価 | | | |
|--------------------------------|-------|---|----------------------------|---|---|---|--------------|--|---|--|
| | | 年 度 目 標 | | | 年 度 評 価 | | | 実施日令和8年2月13日 | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 | | |
| 学 び の 質 の 向 上 に 関 する 取 組 | 1 | ・R6 市学習状況調査では平均を下回っている学年が見られる。 ・学習タイムを継続して実施した結果、自分の課題に合った方法で学習する習慣が身に付いてきた。 ・学校評価「授業がよくわかる」の肯定的評価が児童・保護者80%以下である。 ・学力の向上のためタブレットを活用した授業を効果的に実施し、基礎・基本を定着させ、思考・判断・表現力を向上させる。 ・創造的な学習意欲を高める授業を展開する ・学びの土台となる体験活動を取り入れた授業や学校行事を実施する。 | 学びの自立化と学びの質の向上 | ①スクールダッシュボードやドリルパークの活用等学校課題研修を活かし自立した学習者の育成のための授業実践を行う ②市学習状況調査等の結果を踏まえたTT など指導体制を工夫し、個別最適な指導を行う。 ③思考力や表現力の基礎となる読書活動や STEAMS TIME など探究的な授業を工夫し、実践する。 ④積極的に体験活動を取り入れた学習活動を実施する。 | ①学校評価「授業がよくわかる」の肯定的評価が児童80%以上になったか。 ②スクールダッシュボード等、3年生以上「授業で一人一台端末を毎日活用」の肯定的評価が児童70%以上になったか ③学びの指標の調査結果が昨年度より向上したか。 ④児童の主体性を育む体験活動を実施したか。 | ①学校評価「授業がよくわかる」の肯定的評価が児童88%(前年度比7%増)となり向上した。 ②3年生以上で「一人一台端末を毎日活用」の肯定的評価は児童91%で達成した。 ③学びの指標の調査結果が市平均(R6)校内平均ともに昨年度より向上した。(市:主体+0.04 探究+0.04 ICT+0.03 基礎+0.03 校内:主体+0.06 探究+0.04 ICT+0.01 基礎+0.08) ④児童が主体となった城南まつり、ごみスクールや水道教室など外部講師を招聘した授業を実施し体験活動が増えた。 | A | ・カリキュラムマネジメントの視点から授業の質的向上に取り組む。多様な活動を取り入れた「わかる授業」「楽しい授業」を実践できるように、学校課題研究の改善を行う。 ・個別最適な学びを実践するために、全教員が一人一台端末の活用について改めて研修を行い、児童の学力の向上につなげる。 ・総合的な学習の時間を中心に、探求的な学習の授業改善を行う。 | ・「学ぶ楽しさ」「わかる・できる楽しさ」を十分に味わわせ、確かな学力を身につけさせてほしい。 ・保護者の願いに応えられるよう、進んで家庭学習に取り組むことができるようにしてほしい。 ・AIを活用したデジタル社会に向けて、タブレットを使った授業が進んでいることは評価したい。ただし、タブレットだけでなく、紙を使ったアナログのほうが効果的な授業もあるのではないか。 | |
| | | ・児童間トラブルなど生徒指導案件については報告・連絡・相談・見守りを欠かさず、迅速かつ組織的に対応している。 ・教職員は保護者やSC・SSWと連携を図りながら、誠実に児童に寄り添った対応を行っている ・Sola ルームの活用など校内指導体制の改善が必要である。 ・個に応じた指導・支援を共有する組織の体制改善が必要である。 ・児童の安全意識を高め、安全な登下校やけがのない行動等の実践力を高める。 | 安全安心な学校に向けた指導体制の推進 | ①交通安全に関わる児童への安全指導を徹底する。 ②児童の危機意識や対応力を高めるため、より実践的な訓練を実施する。 ③定期的にアンケートを活用した面談を行い、相談体制を確立する。 | ①学校評価「交通安全」の肯定的評価が保護者80%以上になったか。 ②児童の対応力を高める訓練を実施できたか。 ③学校評価「相談しやすい」の肯定的評価が児童80%以上になったか。 | ①学校評価「交通安全」の肯定的評価が保護者90%(昨年度比4%増)と向上した。 ②不審者対応訓練を実施し、児童の対応力を高めた。 ③学校評価「相談しやすい」の肯定的評価が児童94%(前年度比14%増)と向上した。 | A | ・交通事故ゼロを目指し、安全な登下校について具体的な方策を交通安全部で検討し実施する。 ・各訓練の内容を見直し、児童の対応力を向上させる。 ・コーチングの研修を実施し、児童や保護者の相談を傾聴する実践力をつける。 | ・小学生の交通事故が少なくないので交通安全教育の徹底を図ってほしい。 ・いじめ防止の肯定的評価の向上は評価できるので、継続して取組の強化を進めてほしい。 ・スマホをもって児童が増えている。ネットリテラシーについては親が管理する必要がある。小学校での教育も必要である。 ・先生が相談にのっている等、学校の努力が読み取れる。初期対応として相談しやすい関係が重要である。今後も相談できる体制を整えてほしい。 | |
| 心 の サ ポ ー ト に 関 する 取 組 | 2 | ・児童の安全意識を高め、安全な登下校やけがのない行動等の実践力を高める。 | 児童に寄り添った支援体制の推進 | ①スクールダッシュボード等を活用し、不登校やいじめ、問題行動等の早期発見と対応を迅速に行う。 ②生徒指導委員会と教育相談・特別支援教育委員会を分け、ケース会議など情報共有したり、対応を検討したりする。 | ①学校評価「いじめ防止」の肯定的評価が保護者80%以上になったか。 ②2つの委員会を毎月1回以上実施し、情報共有を行うことができたか。 | ①学校評価「いじめ防止」の肯定的評価が保護者93%(前年度比3.6%増)と向上した ②2つの委員会を毎月実施、情報共有を確実に行った。必要に応じて臨時ケース会議を開催し、早期対応を徹底した。 | A | ・スクールダッシュボード等を活用した不登校やいじめ、問題行動等の早期発見と対応を継続する。 ・対応の遅れがないようケース会議を随時開き、早期対応を徹底する。 ・Sola ルームの運営を検討する。 | ・学校の支援する地域へ感謝の気持ちを表すとともに、今後も地域と協力や連携を図ってほしい。 ・地域の声を取り入れた学校運営を着実に進めている。また、積極的に地域の行事に子どもたちの活躍の場を広げ取り組み始めていることがよい。 ・学校・地域・保護者が一体となって取り組める事業ができることよい。 ・教育活動の発信により、保護者も学校への関心が高まっている。 | |
| | | ・学校運営協議会が主体となり、城南小フェスティバルを開催することができた。 ・学校の教育活動を保護者や地域に周知するため、城南小ブログを発信した。 ・授業参観週間を実施したが、保護者の来校数はあまり伸びなかった。 ・地域の教育資源や地域の人材を授業等に活かし、学校と地域との関係を深める。 | コミュニティ・スクールを核とした児童の健全育成の推進 | ①教職員や児童が参加したり、保護者や地域に熟議等の内容を公開したりして、学校運営協議会の運営を活性化させる。 ②学童連絡会の開催など、関係機関との連携の機会を増やす。 | ①学校運営協議会についての情報をHPで発信、保護者や地域に周知したか。 ②学童連絡会を年2回開催できたか。 | ①学校運営協議会の議事録をHPで発信し、保護者や地域に周知した。熟議についても新たな視点で話し合うことができた。 ②学童連絡会を1学期と3学期開催し、連携を増やすことができた。 | A | ・学校運営協議会や防犯ボランティア連絡会、SSN会議等、関係機関との連携をより深め、取組を活性化させる。 ・保護者や地域と一体となった防災教育に取り組む。 | ・学校運営協議会や防犯ボランティア連絡会、SSN会議等、関係機関との連携をより深め、取組を活性化させる。 ・保護者や地域と一体となった防災教育に取り組む。 | |
| 学 校 づ く り に 関 する 取 組 | 3 | ・地域の教育資源や地域の人材を授業等に活かし、学校と地域との関係を深める。 | 学校教育への保護者や地域の方の参画 | ①創立45周年記念行事等、学校と保護者が連携した取組を実施する。 ②給食の試食等、学校の教育活動への関心を高める取組を行う。 | ①創立45周年記念行事をPTAと協力して行うことができたか。 ②保護者や地域に教育活動を積極的に公開したか。 ③授業の様子をブログで発信したか。 | ①創立45周年記念行事をPTAと協力して行うことができた。(11月実施) ②③年4回の授業参観を実施し、保護者や地域に教育活動を積極的に公開した。ブログのアクセス数は5万を超えた。 | A | ・ブログ等で教育活動の発信を継続し、学校に対する保護者や地域の関心を向上させる。 ・地域人材の活用を教育活動に取り入れ学校と地域の連携を深める。 | ・学校を支援する地域へ感謝の気持ちを表すとともに、今後も地域と協力や連携を図ってほしい。 ・地域の声を取り入れた学校運営を着実に進めている。また、積極的に地域の行事に子どもたちの活躍の場を広げ取り組み始めていることがよい。 ・学校・地域・保護者が一体となって取り組める事業ができることよい。 ・教育活動の発信により、保護者も学校への関心が高まっている。 | |
| | | ・不要な物を整理し、児童が落ち着いて過ごすことができる環境に改善されてきた。 ・教具等の整理や花壇の緑化など明るく気持ちのよい学習環境を整えることができた。 ・児童の作品の展示など、校内や教室の計画的かつ効果的な掲示環境の改善を行う。 ・中央階段や廊下等に埃やごみが多く、児童の清掃活動の徹底と工夫改善を行う。 ・校舎の外側窓の汚れが見られ、清掃を行う。 | 美しく整備された教育環境による教育活動の推進 | ①個別指導のために空き教室を利用する ②教具の修理や補充を行い、教育活動で活用できるようにする。 ③ユニバーサルデザインの視点で学習等に活きる掲示環境を整備する。 | ①空き教室や教具が使いやすく整備され活用されているか。 ②掲示物の活用について改善を行うことができたか。 | ①夏季休業の職員作業で空き教室の整備や教具の不用品処分を行った。 ②教室棟1階の掲示板をあいさつ運動など児童会の活動紹介に変え、活きた教育環境に改善した。 | A | ・児童による緑化運動を増やすなど児童が主体の環境整備を行う。 ・全掲示板の活用を見直し整備する。 ・赤ロビーの有効活用を行う。 | ・空き教室やロビーなど整備された教育環境を活用してほしい。 ・校務員など教職員の働きで学校がきれいになっている。学校がきれいになっているので子どもたちも落ち着いている。 ・トイレの改修を進めてほしい。 ・暑さ対策については、PTAでできることを行っていきたい。 ・児童のけがについて件数の減少は良い傾向であるので、さらに防止に向けた取組を行ってほしい。 | |
| 教 職 員 の キ ャ リ ア 形 成 に 関 する 取 組 | 4 | ・困難な業務において教職員同士のサポートや改善への意識が高く、連帯感が強い。 ・日課を変更して研修や会議等の時間を確保し、勤務時間内での業務を行えるようにした。 ・小規模校のため一人当たりの仕事量が多く、担当する校務分掌によっては業務の偏りがあった。 ・業務によって教員一人で取り組んでいる傾向が見られ、連携不足により業務に支障がでた事案があった。 ・ベテラン教員の経験を傳承しながら、若手教員を育成する。 | 安心安全で豊かな教育環境の整備 | ①施設設備等の日常・定期・臨時点検を行い、危険箇所には迅速に対応する。 ②清掃の仕方について改善を図る。 | ①児童のけがの件数を昨年度より減少させたか。 ②児童の清掃活動が徹底されているか。 | ①児童のけがの件数は昨年度より若干減少した。 ②学校評価「そうじをがんばっている」の肯定的評価は児童93%となり、高い意識のもと児童の黙々清掃が定着してきている。 | B | ・けがの防止に向けた方策を保健部・生徒指導部・体育部等で検討し実施する。 ・教頭や事務主査、安全主任等と情報を共有し、修繕など安全な教育環境の整備に迅速に取り組む。 | ・若手教員に責任を持たせ、学校運営に参画させる取組は将来に向けて成果が期待できる。今後、中堅教員が積極的に授業公開をするなど指導力の向上に取り組めることよい。 ・学力の高まりを感じる保護者が増加しているのは、教員の指導力の向上によるものと考えられる。常に教員には指導力の向上に励んでほしい。 ・教職員の過度な負担を軽減する働き方改革が前進していることがよい。 | |
| | | ・困難な業務において教職員同士のサポートや改善への意識が高く、連帯感が強い。 ・日課を変更して研修や会議等の時間を確保し、勤務時間内での業務を行えるようにした。 ・小規模校のため一人当たりの仕事量が多く、担当する校務分掌によっては業務の偏りがあった。 ・業務によって教員一人で取り組んでいる傾向が見られ、連携不足により業務に支障がでた事案があった。 ・ベテラン教員の経験を傳承しながら、若手教員を育成する。 | 教職員の指導力の向上 | ①OJTを進め、若手教員を育成する。 ②研修主任を中心として、学校課題研修を計画的に行う。 | ①教科等主任など任された業務を通して若手教員を育成することができたか。 ②学校課題研修を活かし、全教員が授業改善に取り組むことができたか。 | ①②若手教員に学年主任や教科等主任を任せ学校運営に参画する力量を身に付けさせることができた。校内研究授業(9・11月)と市教研研修大会研究授業(算数科)を実施し、教員の授業力を向上させた。 | B | ・教職員一人ひとりが指導力の向上を実感できる学校課題研修を実施する。 ・今後もOJTを進め、若手教員の育成を行う。 | ・若手教員に責任を持たせ、学校運営に参画させる取組は将来に向けて成果が期待できる。今後、中堅教員が積極的に授業公開をするなど指導力の向上に取り組めることよい。 ・学力の高まりを感じる保護者が増加しているのは、教員の指導力の向上によるものと考えられる。常に教員には指導力の向上に励んでほしい。 ・教職員の過度な負担を軽減する働き方改革が前進していることがよい。 | |
| 教 職 員 の キ ャ リ ア 形 成 に 関 する 取 組 | 5 | ・困難な業務において教職員同士のサポートや改善への意識が高く、連帯感が強い。 ・日課を変更して研修や会議等の時間を確保し、勤務時間内での業務を行えるようにした。 ・小規模校のため一人当たりの仕事量が多く、担当する校務分掌によっては業務の偏りがあった。 ・業務によって教員一人で取り組んでいる傾向が見られ、連携不足により業務に支障がでた事案があった。 ・ベテラン教員の経験を傳承しながら、若手教員を育成する。 | 組織的な働き方改革の推進 | ①自己評価シートやキャリア振り返りシートを活用し個々のマネジメント力を高め、業務改善に活かす。 ②起案の精度を高め会議時間を減らす。 ③集金等の仕組を改善し業務を削減する | ①勤務時間内で会議を行うことができたか。 ②2つ以上業務を削減できたか。 | ①行事の計画立案を部会等で効率的に検討したことで起案の精度が高まり、勤務時間内に各会議を終えることができた。 ②スクリーン配信より印刷業務を削減、運営委員会等の会議時間の削減ができた。 | A | ・自己評価シート等を活用し、教員個々のマネジメント力を高める。 ・計画的に会議を開催し、放課後の業務時間を確保する。 ・集金業務の改善を行う。 | ・若手教員に責任を持たせ、学校運営に参画させる取組は将来に向けて成果が期待できる。今後、中堅教員が積極的に授業公開をするなど指導力の向上に取り組めることよい。 ・学力の高まりを感じる保護者が増加しているのは、教員の指導力の向上によるものと考えられる。常に教員には指導力の向上に励んでほしい。 ・教職員の過度な負担を軽減する働き方改革が前進していることがよい。 | |

